

平成30年度 学 校 評 価 報 告

草加市立 花栗 中学校

(平成31年2月8日作成)

1 学校教育目標	
「自ら考え、心豊かに、たくましく生きる」 ○学力を伸ばす生徒（知） ○豊かな心を育てる生徒（徳） ○心身共に健康な生徒（体）	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
1. 学習指導の充実 2. 生徒指導・教育相談の充実 3. 豊かな心を育む教育の推進 4. 心潤う生活環境づくり 5. 学年・学級経営の充実 6. 充実感を味わう学校行事・生徒会活動 7. 学びを支える健康・安全 8. 特別支援教育の充実 ・体力づくり 9. 幼保小中の連携の推進と開かれた学校づくり・保護者、地域との連携	成果 ○落ち着いた環境の中で、生徒が授業に集中して取り組んでいる。また学校行事・生徒会活動等で生徒が自立した活動を意欲的に出来た。 ○明確な指導方針を示し、全教職員が共通理解のもと『自ら考え心豊かにたくましく生きる』生徒の育成に取り組むことが出来た。 課題 ●「学び合える学校」を目指し、授業力向上に向けた実践研究の推進や家庭学習の充実に力を入れ、基礎基本の確立と学力の向上を図る。 ●1人1人に寄り添った生徒理解とともに人権意識の醸成と道徳教育の実践研究や言語活動の充実に関心をもち、豊かな心の育成に向けた取り組みを更に推進する。

4 評価表 ※評価基準〔A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である〕				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	- 学校経営目標、方針 - 校務分掌組織 - 適所への適材配置 - 職員会議等の運営 - 予算の執行・決算、監査等	A	○全職員が学校教育目標・方針を理解し、連携・協力し合い、運営にあたることができた。 ○職員会議等を効率的に運営し、共通理解を図ることができた。 ●校務分掌の適正化（過重・定数の加減等）を図る。 ●各分掌の取組を明確にし、若手に引き継いでいくようにする。
	②研究・研修	- 研究組織、計画、実施 - 校内研修の推進 - 授業改善への取組 - 校外研修会への参加 - 人材育成	B	○道徳研究を通して、確立した本校のスタイルをスタンダードに全員で取り組む道徳を推進している。 ○校内授業研究会をはじめ、お互いに授業を参観する機会を通し、授業改善・指導力向上を図ることができた。 ●効果のある確実な教職員事故防止の研修と若手教員も含めての育成をさらに推進する必要がある。
	③保健管理・安全管理	- 保健計画、安全計画 - 環境衛生の管理 - 健康観察、安全点検 - 緊急事態発生時の対応 - 危機管理マニュアルの作成・活用	A	○健康観察や校内の衛生管理等が適切に行われた。 ○登校安全指導を通して、交通安全や交通マナーを指導できた。 ○小中合同引き渡し訓練や定期的に防災訓練を実施することができた。 ○危機管理マニュアルを周知徹底し、実践に生かせるようにした。 ●健康保健の取組で虫歯の治癒率は70%を越えているがさらなる治癒率の向上に努める。
	④情報管理・施設設備管理	- 個人情報の管理、保護 - 施設設備の管理と有効利用	A	○校内・学級等の掲示なども計画的に工夫して整備され、学習や啓発活動するのに相応しい環境であった。 ○情報管理の研修を行い、個人情報の管理、安心安全な対応を今後も十分に気を付けたい。 ○校舎・施設等の安全点検と修繕箇所の確認を行い、施設管理を向上した。 ●校舎だけでなく校庭等も含め、教育の場に相応しい整備の意識を高めていく。
	⑤地域との連携・開かれた学校	- 学校情報の発信 - 学校公開の実施 - 学校評議員の活用 - 地域・校種間連携 - PTA活動の活性化	A	○各種便り、学校公開等で、教育方針及び生徒のより良い変容を中心に積極的な発信に努めた。 ○年間を通した「学校めぐり」では、多くの保護者の参加があり、先生方の授業改善と学校の様子を知って頂く良い機会が出来ている。 ○「ふれあいの集い」「挨拶運動」など、PTAを中心とした活動が活発であった。 ●地域との日常的な連携をさらに深める取り組みを加える必要がある。 ●地域貢献的な活動を今後、実施していく。
	⑥幼保小中を一貫した教育	- 目指す子ども像の実現に向けた取組 - 教育課程の編成 - 一貫教育推進のための組織づくり	B	○合同研修会、部活動体験入部、授業公開、情報交換会、一貫教育推進に関わる協議会、あいさつ運動、合同引き渡し訓練等を継続して実施することが出来た。 ○夏休み、小学校の補習に中学生がリトルティーチャーとして参加したり、運動部が小学校に出向き、合同練習で小学生へ指導するなど、学習・運動、両面での交流ができた。 ○3年生による小学校へ出向いての、「6年生中学生と語る会」を実施し、中学校入学前の疑問や悩みを中学生に質問し、中1ギャップの解消に役立った。 ○社会体験で幼稚園・保育園・小学校へ中学1年生が行き、実体験を行うなど連携が深まった。 ●平成31年度の委嘱発表に向け、全ての教育活動での、年間を見通した計画を立てて一貫カリキュラムの充実と見直しを確立させていく。

草加市立 花栗 中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅱ 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	- 教育課程の編成、実施 - 教育計画の作成 - 教育活動の評価 - 目標、方針の周知 - 授業時数の配当、確保	A	○教育課程の編成や実施は計画通りにできた。 ○テスト前の学習会や、希望者への補充学習を行うことができた。 ○教育目標や方針は教職員に十分に理解されている。 ○朝清掃と朝読書を通し、整備された環境と落ち着いた雰囲気の中で授業をスタートできている。 ●授業時数確保のために年間行事計画を見直し、行事の精選を行う必要がある。
	②教科指導	- 指導計画の立案 - わかる授業づくり - 指導方法の工夫と改善 - 評価、評定の工夫 - 外部人材の活用	B	○指導計画に沿った授業や適切な評価・評定ができた。 ○2年数学の少人数指導では、個に応じた指導も含め意欲の高揚を図ることができた。 ○学区内にある獨協大学との連携のもと、総合的な学習や外国語における大学生や留学生との交流を通じ、学習の多様な機会を持っている。 ●個々の生徒の習熟度に応じた指導方法を工夫していくとともに、より対話的、主体的な活動となるよう、言語活動を充実していく。
	③道德教育	- 全体計画の作成 - 各教科との関連 - 道徳的実践力の育成 - 家庭、地域社会との連携 - いのちの教育の推進	B	○花中スタンダードの道徳に今年度も引き続き取り組み、実践を積み重ねることが継続して出来ている。 ●来年度も、引き続き「教科化」に向け、評価の在り方についての方向性と記述について研修していく。1年間を見通した教材配列と実施時期の配慮・修正を積極的に行っていく。 ●いのちの教育の実践と充実を全ての教育活動を通して、推し進める。
	④特別活動	- 指導計画の立案 - 学級活動、学級経営 - 学校行事 - 生徒会活動	A	○生徒主体の活動を意識した指導に心がけし、リーダーの育成にも繋がった。 ○限られた時間の中で職員、生徒、保護者が協力して各行事を行うことが出来た。 ●生徒の自主性を大事にし、行事を行っていくとともに、思考力・判断力・表現力を高めるために討論を意識した学級会も開いていく。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	- 指導計画の立案 - 指導内容の充実 - 指導方法の工夫と改善 - 評価の工夫	B	○1学年では社会体験活動を通して、地域社会と触れ合うことができた。また3年間を見通した全体計画・年間計画が組まれ、実施できた。 ●課題設定から課題解決ができる生徒の育成をめざし、さらに探求的な活動を意識した年間計画・指導計画の再確認と充実を図っていく。
	⑥生徒指導	- 組織的な生徒指導 - 問題行動への対処 - 教育相談、生徒理解 - いじめ防止対策 - 保護者、地域、諸機関との連携	B	○全職員で登校指導を継続して行い、積極的に声かけすることで、生徒の小さな変化に気づき素早く対応できた。 ○生徒指導や教育相談の各部会や指導報告書などを通じて、情報の共有と共通認識をもつことができ、同一歩調・同一行動で諸問題に多角的に対応できた。 ●三者面談、家庭訪問を通じて、1人1人の生徒理解に努め、不登校生徒の対応を推進する。
	⑦キャリア教育	- 組織的なキャリア教育 - 指導方法の工夫と改善 - 啓発的経験の充実 - 進路情報の収集、活用 - 職場体験活動	A	○3学年とも計画に基づいた系統的な体験学習を実施することができた。 ○進路だよりが定期的に発行され、3学年だけでなく全学年でも学級活動で活用した。 ○職場体験・社会体験事業や高校の先生を招いての進路学習会など、各学年で計画的に実施され、生徒の進路キャリア教育の学びにも繋がり、将来の目標設定への指針となった。
	⑧特別支援教育	- 個別の指導計画、支援計画 - 指導方法の工夫と改善 - 通常学級との交流 - 諸機関との連携 - 校内支援体制の整備	A	○生徒の個別の指導計画・支援計画に従い全員が学習を進められた。 ○校内支援体制の整備について、学年内での共通理解が図られている。 ○教科や行事や交流給食など、通常学級と計画的に交流が図れた。 ●生徒・保護者の一人ひとりの願いや思いを大切に支援について、継続していきたい。
	⑨学校図書館教育	- 指導計画、支援計画の作成 - 図書館補助員の活用 - 諸機関との連携 - 図書館の整備 - 図書館利用の工夫	A	○図書館司書や図書委員による図書室の整備や掲示物などで、図書室の利用環境を整え、貸し出し数も多い。 ○国語科授業での使用を多くし、図書室の活用の仕方を示した。 ●図書室が狭いため、増書のために整備の方法を考えていく。
	⑩情報教育	- 教育計画の作成 - 校内研修の充実 - ICT機器の積極的な活用 - 情報モラル教育の推進	B	○授業で、多くの先生がICT環境の活用を積極的に行っている。 ○SNSも含め情報モラルについて、集会やクラスで定期的に指導することができた。 ●全教員が機器の活用と効果的な使用を目指し、情報機器の一層の充実を図るとともに、活用法についての研修を随時行う。

⑪人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○相手の尊重や生命尊重などの課題に関して、日常的に人権感覚の育成を積極的に行っている。 ○各教科・領域において常に人権意識をもった取り組みを計画している。 ●様々な人権課題への理解と研修の推進で、全教員の指導力の向上を推し進める。特にSNSに関わっての責任ある発信や他者を思いやる心、人間関係作りについて積極的に取り組み、人権感覚の育成をしていく。
-------	--	---	---

(様式2・中学校用③)

草加市立 花栗 中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	・心の教育の充実	・体験的活動の充実 ・指導方法の工夫 ・家庭・地域社会との連携	B	○毎日の「朝のあいさつ運動」で、あいさつによる心のふれあいを大切にしている。 ○気持ちの良い、積極的な「あいさつ」が自然に行える生徒が多い。 ●道徳教育・心の教育の充実を通して、生徒の豊かな心の醸成出来るよう授業展開を再度確認する。 ●生徒への声かけを大切にし、一人一人の変化や変容に心を配り、常に寄り添う指導を行う。
	・潤いのある生活環境づくり	・学級活動等の充実 ・学級応援団との連携 ・施設設備の管理と有効活用	A	○生徒とPTAと協力し、花壇の整備等を通して、潤いのある生活環境づくりを行った。 ○PTA主催の「ふれあいの集い」や地域の方々参加の「朝のあいさつ運動」など、他にも町会での取り組みにも交流を吹奏楽等に参加してきた。 ●安心安全な環境を目指し、積極的に破損箇所の確認と施設や設備の充実を行うことが必要である。
	・学びの基礎づくり (生きる力4カ条)	・目標、方針の周知 ・指導内容の充実 ・評価の工夫	B	○テスト前に限らず、日頃の補充学習として時間を確保し取り組みを行っている。長期休業を利用して、支援が必要な生徒への補充学習を行った。 ○学年・クラスで、家庭学習の取り組み方を具体的に提示し、毎日取り組ませながら、学習シートの活用などを進めつつ、丁寧に評価しながら定着を図り、学力向上へのきょうけにしている。 ●「生きる力4カ条」に関し、課題を見つけて解決に導く指導だけでなく、生徒自らが解決に向け積極的に行動できるよう意識して取り組んでいく。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)
・生徒及び保護者の学校評価アンケートで、学校生活の指針である「生きる力4カ条」に関しての評価が高く、多くの生徒が規律ある生活を送っている。「学力を伸ばす努力をしている」の質問に対しても91%の生徒がそう思うと答えている。また、毎月定期的に行っている学校公開でも地域・保護者の方々の参加が多く、参加者からは「生徒らの落ち着いた授業への取り組み、積極的な授業参加、生徒の積極的な挙手・発言」等に関して、安心した学習環境であると評価をいただいている。各教科領域等でも積極的に「主体的で対話的な深い学び」を意識して様々なよりよい指導法を工夫しながら、生徒の主体性を持った取り組みを目指して、言語活動を中心とした学び合える授業の展開に取り組み、学力の向上を図っていききたい。 ・保護者は学力と同様に心を育てることに強く関心が高い。道徳教育・人権教育を通して、他者を思いやることや自分を大切にすることに、あらゆる教育活動を通して進め、『生徒一人ひとりの良さや可能性が発揮される学校教育の推進』に教職員一丸となって取り組んでいきたい。また、「学校はお子さんのことについて家庭と連携を取っている」の質問に91%の保護者が肯定しているが、1人1人の悩みや問題には丁寧かつ適切に個々に対応をしていきたい。 ・幼保小中の連携をさらに深め、0歳から15歳の学びを意識し、生徒一人一人を大切にしたい個を生かす指導を実践するとともに、花栗中校区のめざす子ども像に向けて、一貫した教育活動に取り組んでいく。

6 次年度の改善策

○学力の更なる向上に向けた取り組みを推進するとともに授業改善と指導力向上を目指す。

- ・「生きる力の4カ条」の徹底
- ・「全国学力学習状況調査」、「埼玉県学力学習状況調査」、「草加市学力学習状況調査」の分析と具体的な学力向上の手立てと効果のある取り組み及び実践研究の推進
- ・「主体的で対話的な深い学び」の実現に向け、6則をふまえた授業改善や指導力向上に関する実践研究の推進
- ・家庭学習の充実と補習等の学習支援、基礎基本の定着を
- ・全教科・領域における新学習指導要領全面実施に向け、年間計画・全体計画等の計画的な準備

○豊かな心の育成に向けた取り組みをあらためて確認し、生徒1人1人に寄り添えるよう、丁寧に推進する。

- ・道徳教育の実践研究
- ・言語活動の充実
- ・行事の活性化と生徒の主体性を育てる
- ・地域・家庭との連携

○保護者、地域、諸機関と連携した生徒指導・教育相談活動をさらに継続・推進していく。同時に予防的な取り組みも含め1人1人の想いや悩みに対応できるよう再度確認していく。

○花栗中学校区内での幼保小学校等との連携を更に強化し、0歳から15歳の学びを意識した教育活動の実施。

- ・9カ年を一貫した教育課程の作成
- ・中学校区の幼保小中すべての教員の共通した指導観、「めざす子ども像」の共有と接続のあるカリキュラムの実施